

Title	椎茸の在庫管理 - 某椎茸卸売会社の事例研究 -
Sub Title	
Author	安藤正剛(Andou, Seigou) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1986
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1986年度経営学 第452号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001986-0452">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001986-0452</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0452

学生氏名 安藤正剛

主査 伏見多美雄

副査 小野桂之介

所属ゼミナール 柳原一夫研

柳原一夫

## 椎茸の在庫管理 — 某椎茸卸売会社の事例研究 —

宮崎椎茸では、椎茸取扱量の増大にともなって利益率の低下に悩まされていた。

椎茸業界ではその市場経営システムの為、購入量が増大することにより仕入れコストが上昇することが避けられなかった。しかも椎茸相場は変動が大きかったため、同社の企業体力を弱体化の方向に向かいつつあった。したがって同社では相場リスクの軽減を目的とした倉庫の建設を考えている。この倉庫に相場下落時に多量に在庫することにより相場リスクを回避するだけでなく、利益率の向上も計ろうというものである。

本論文の目的は最適在庫水準の策定と、それを実現するための倉庫容積を提案することにある。そのため同社の過去データを使って、シミュレーションモデルを作り、実行した。

研究の結果、年間生産量の50%のスペースを持つことにより同社の平均仕入れ単価を理想値に近づけることができることが確かめられた。したがって同社の利益率も向上するはずであった。